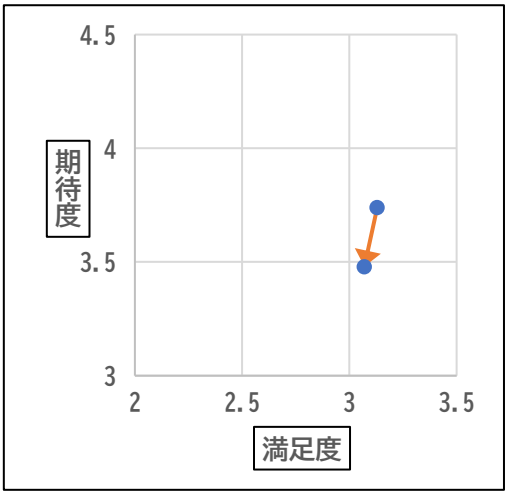
❼福祉-２　高齢福祉

行政経営戦略基本計画	P79・80	統括担当課	高齢介護課
まちづくりの目標	４　暮らしにやさしく笑顔があふれるまち		
政 策	３　誰もが安心していきいきと暮らすことができるまちにします		
分 野	❼福祉	施 策	２　高齢福祉
基本方向	一人ひとりが住み慣れたまちで自分らしく健やかに暮らせるように、高齢者を支える地域包括ケアシステムを深化・推進します。		
分野計画	せっつ高齢者かがやきプラン		

■市民意識調査結果

実施年度	満足度	期待度
令和７年度	3.07	3.48
令和２年度	3.13	3.74



■施策の総括

１　自立支援と重度化防止

指標(KPI)の状況

要介護認定率

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
18.9%	18.9%	18.6%	18.9%	20.1%	20.9%	21.5%	×

主観的健康観「とてもよい」「まあよい」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
82.3% （令和４年度）	84.3%	―	82.3%	―	―	82.7%	△

❼福祉-２　高齢福祉

「生きがいがある」と回答した高齢者の割合

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
50.9%	58.1%	―	56.1%	―	―	57.1%	△

外出頻度「週１回以下」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
16.5% （令和４年度）	14.6%	―	16.5%	―	―	14.1%	○

※年度の表記がない項目は、基準値…令和元年度の数値を示しています。

主な取組実績 （R3～R6 年度）	【高齢介護課】 ・「健康づくりグループ」50 グループで体操等の活動ができた。また、グループ同士の交流と積極的に活動している団体の取組を他の団体に波及させるため、活動発表会を開催し、延べ 626 人が参加した。 ・保健センターのリハビリテーション専門職による介護予防活動先への派遣を実施し、リハビリや体操に関する指導を実施した。また、ケアマネジャーの訪問に同行し、要支援者のケアプラン作成時の助言を行った。 ・「はつらつ元気でまっせ講座」や「脳トレ体操普及サポーター養成講座」など、各種講座を実施した。 ・委託型つどい場等において、介護予防に関する活動を行った。また、市立集会所でカフェ型つどい場を運営する団体に集会所使用料等を補助し、地域介護予防活動を支援した。 ・健康づくりや生きがいを持つことを目的に、高齢者が 3 か月就労する「健康・生きがい就労トライアル」を実施した。
主な取組実績 （R7 年度）	【高齢介護課】 ・「健康づくりグループ」について、1 グループが解散した一方、新たに 4 グループが健康づくりグループに加入し、市内 53 グループで体操等の活動ができた。また、グループ同士の交流と積極的に活動している団体の取組を他の団体に波及させるため、活動発表会を開催し、352 人、20 グループが参加した。 ・保健センターのリハビリテーション専門職による介護予防活動先への派遣を実施し、リハビリや体操に関する指導を実施した。（委託型つどい場：240 回、カフェ型つどい場：0 回、リハサロン：116 回）また、ケアマネジャーの訪問に同行し、要支援者のケアプラン作成時の助言を 53 回行った。

	・「はつらつ元気でまっせ講座」を 4 回実施した。 ・「脳トレ体操普及サポーター養成講座」では 8 人のサポーターを養成した。また、サポーター養成に留まらず、脳トレ体操の幅広い周知を目的に、「脳トレ体操体験講座」を新たに開催し、26 人が受講した。 ・市立集会所でカフェ型つどい場を運営する 19 団体に対し、集会所使用料等を補助し、延べ 5,999 人が参加した ・「健康・生きがい就労トライアル」について、市民向け説明会を開催し、32 人が参加し、うち 9 人の就労につながった。
分析・考察	・KPI「要介護認定率」は、令和 7 年度実績が 21.5%であり、目標値（18.9%）を維持できなかったため「×」とした。 ・高齢化の進展に伴う後期高齢者の増加という構造的な要因に加え、長引いたコロナ禍での外出自粛等による心身機能の低下（フレイルの進行）が影響していると考えられる。 ・KPI「主観的健康観『とてもよい』『まあよい』と回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 82.7%であり、基準値（82.3%）からは微増したものの、目標値（84.3%）に届かなかったため「△」とした。 ・外出機会は回復しつつあるものの、身近な地域資源等、日常的に体を動かしたり健康づくりに取り組んだりする環境が十分に回復しきれていないことが影響していると考えられる。 ・KPI「『生きがいがある』と回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 57.1%であり、基準値（50.9%）からは増加したものの、目標値（58.1%）に届かなかったため「△」とした。 ・外出への意欲は改善している一方、地域の担い手不足や活動拠点の縮小により、高齢者が地域の中で役割を持ったり、多様な交流を図ったりする「生きがい」に直結する社会参加の場が不足していることが推測される。 ・KPI「外出頻度『週 1 回以下』と回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 14.1%であり、目標値（14.6%）を下回ったため「〇」とした。 ・新型コロナウイルス感染症による行動制限の解除に加え、サロン等への参加意欲など、高齢者自身の社会参加に対する意欲がコロナ禍以前の状態に回復しつつあることが要因として考えられる。 ・市民意識調査において、高齢福祉に関する満足度が低下（3.07）している一方、期待度は依然として高い水準（3.48）にあることから、市民が健やかで自分らしく暮らすための支援が重要と考えられる。「外出頻度『週 1 回以下』の割合」の改善から社会参加意欲の回復が見られる一方、担い手の高齢化等により「健康づくりグループ」や「老人クラブ」など身近な地域の活動拠点の維持が困難になりつつあり、予防活動を維持するためのサポート体制の強化が重要となっている。今後は、新たな担い手発掘や資源開拓を進め、誰もが身近な地域で無理なく介護予防に取り組める環境整備が求められる。

	・全国的に団塊の世代が後期高齢者となるなど、さらなる高齢化を見据え、高齢者が住み慣れた地域で長く健やかに活躍できる環境づくりが一層重要とる。今後は、単に要介護状態への移行を防ぐだけでなく、多様な形での社会参加や生きがいづくりを通じた、「自立支援・重度化防止」の新たな仕組みが求められる。

２　高齢者を支援するネットワークの強化

指標(KPI)の状況

「まわりの人とつながっている」と回答した高齢者の平均点数【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
7.0点 (令和４年度)	7.3点	―	7.0点	―	―	7.2点	△

「摂津市は高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う」と回答した市民の割合

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
46.4% (令和２年度)	51.0%	45.3%	50.3%	46.9%	38.6%	42.4%	×

地域包括支援センターを「知っている」「聞いたことがある」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
54.2% (令和４年度)	57.2%	―	54.2%	―	―	58.4%	○

地域づくりの参加者として「すでに参加している」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
4.3% (令和４年度)	5.3%	―	4.3%	―	―	5.5%	○

医療やケアについて「話し合っている」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
28.2% (令和４年度)	35.0%	―	28.2%	―	―	―	―

認知症に関する相談窓口の認知度【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
17.0% (令和４年度)	25.0%	―	17.0%	―	―	18.9%	△

❼福祉-２　高齢福祉

まわりの人とのつながりについて「まったくつながっていない」と回答したひとり暮らし高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
7.3% （令和４年度）	1.2%	―	7.3%	―	―	4.5%	△

※年度の表記がない項目は、基準値…令和元年度の数値を示しています。

主な取組実績 （R3～R6 年度）	【高齢介護課】 ・地域包括支援センターにおいて、新規相談延べ 4,781 件に対応するとともに、介護予防ケアプラン延べ 47,881 件を作成した。 ・生活支援コーディネーターによる地域の活動拠点や団体への訪問活動や、高齢者世帯を対象にした民間賃貸住宅家賃助成など、高齢者の生活支援に係る体制整備を推進した。 ・認知症サポーター養成講座や認知症サポーターステップアップ講座等のほか、小学校と連携したキッズサポーター養成講座を実施した。 ・「ひとり歩き声かけ模擬訓練」の実施や認知症の本人同士が語り合う「本人交流会」の実施など、認知症の方への総合的な支援を行った。 ・ひとり暮らし登録者及び高齢者のみ世帯に対し、ライフサポーターによる自宅訪問や介護認定の申請、福祉サービスの案内などの支援を行った。 ・緊急通報装置の貸与について、携帯型機器を導入するとともに、要件緩和により対象者を拡大し、見守り支援を強化した。 ・食事の準備が困難な高齢者に対してバランスのとれた食事の配食サービスを実施した。また、特別食の提供を開始した。 ・養護者や施設従事者による高齢者虐待の疑いに係る通報延べ 214 件に対し、本人や関係機関、施設への聞取りを踏まえ、個別に対応した。
主な取組実績 （R7 年度）	【高齢介護課】 ・地域包括支援センターにおいて、新規相談 1,488 件に対応するとともに、介護予防ケアプラン 11,850 件を作成した。 ・生活支援コーディネーター（第２層）が３名体制で地域の活動拠点や団体に 289 回訪問し、活動を通じて把握した地域資源の情報提供や助言を実施した。 ・鳥飼北小学校区において、「ひとり歩き声かけ模擬訓練」を実施し、計 19 人が参加した。また、認知症サポーター養成講座において、「声かけ訓練」を実施し 62 人が参加した。 ・認知症の本人同士が語り合い、本人の声を聞くことで地域の中で住み慣れた地域でより暮らしやすくすることを目的とした「本人交流会」を実施し、認知症の本人家族等関係者を含む 51 人 （本人 29 人、家族 22 人） が参加し

	た。 ・ひとり暮らし登録者及び高齢者のみ世帯、計 1,186 人に対し、1 人当たり約 5 回ライフサポーターが自宅訪問し、より支援が必要な人に対する訪問強化のため、運用を見直した。 ・ライフサポーターを通じて介護認定の申請、福祉サービスの案内を行い、介護認定の申請 32 件、福祉サービスの申請 54 件につながった。 ・食事の準備が困難な高齢者延べ 1,032 人に対してバランスのとれた食事を延べ 14,868 食提供するとともに、栄養状態に問題がある人への栄養士による栄養指導を 3 件行った。また、普通食に加え、3 人に対して、消化にやさしい食延べ 241 食、たんぱく・塩分調整食延べ 84 食、カロリー塩分調整食延べ 5 食の特別食を提供した。 ・養護者による高齢者虐待の疑いに係る通報が 46 件あり、本人や関係機関からの聞取りを踏まえ、個別に対応した。施設従事者による高齢者虐待の疑いに係る通報は 3 件あり、施設への聞取り調査を踏まえて、個別に対応した。
分析・考察	・KPI「『まわりの人とつながっている』と回答した高齢者の平均点数」は、令和 7 年度実績が 7.2 点であり、基準値（7.0 点）からは改善したものの目標値（7.3 点）には届かなかったため「△」とした。 ・ライフサポーターによる自宅訪問や生活支援コーディネーターの活動により、地域との接点は少しずつ回復しているものの、高齢者単独世帯の増加が進んでおり、つながりの実感を大きく引き上げるには至っていないと推測される。 ・KPI「摂津市は高齢者にとって暮らしやすいまちだと思うと回答した市民の割合」は、令和 3 年度から令和 7 年度の 5 か年平均が 44.7%であり、基準値（46.4%）を下回ったため「×」とした。 ・高齢化の進展や単独世帯の増加に伴い、複雑な制度に対して理解が進みづらく、必要な支援が受けづらい実態が「暮らしやすさ」の実感低下に影響していると考えられるため、より分かりやすい情報発信と相談支援体制の強化に取り組んでいくことが重要となる。 ・KPI「地域包括支援センターを『知っている』『聞いたことがある』と回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 58.4%であり、目標値（57.2%）を上回ったため「○」とした。 ・地域包括支援センターにおける新規相談への継続的な対応に加え、ライフサポーターによる福祉サービスの案内や、生活支援コーディネーターを通じた地域への情報提供などが、成果につながっていると考えられる。 ・KPI「地域づくりの参加者として『すでに参加している』と回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 5.5%であり、目標値（5.3%）を上回ったため「○」とした。 ・生活支援コーディネーターによる地域の活動拠点や団体への継続的な訪問

	活動や助言、また、認知症サポーター養成講座などの啓発活動が、高齢者の地域活動への参加を促していると推察される。 ・KPI「医療やケアについて『話し合っている』と回答した高齢者の割合」については、実績値が確認できないため「－」とした。 ・KPI「認知症に関する相談窓口の認知度」は、令和７年度実績が 18.9%であり、基準値（17.0%）を上回ったが、目標値（25.0%）には届かなかったため「△」とした。 ・「本人交流会」の開催や「ひとり歩き声かけ模擬訓練」、認知症サポーター養成講座など、地域と連携した啓発活動を通じて認知症への理解は進んでいるものの、具体的な「相談窓口」のピンポイントな周知には課題が残っていると考えられる。 ・KPI「まわりの人とのつながりについて『まったくつながっていない』と回答したひとり暮らし高齢者の割合」は、令和７年度実績が 4.5%であり、基準値（7.3%）は下回ったが、目標値（1.2%）には届かなかったため「△」とした。 ・ひとり暮らし高齢者に対するライフサポーターの定期的な自宅訪問や、配食サービス等を通じた定期的な見守りが、孤立化を防ぐ効果として一定現れていると考えられる。 ・市民意識調査において、高齢福祉に関する満足度が低下（前回 3.13→3.07）している一方、期待度は高い水準（3.48）にある。高齢者の単身化が進む中、孤立への不安や認知症への対応など、いざという時のサポート体制（ネットワーク）に対する市民の期待は非常に大きいと考えられる。 ・全国的な社会問題ともなっている「頼れる身寄りのない高齢者」の増加を見据え、「75 歳到達者へのサービス案内」等について、高齢者単独世帯をはじめ、見守りの必要性が高い対象へ重点的かつ効果的なアプローチとともに、身寄りのない高齢者を社会全体で支えるための新たな支援体制の整備が求められる。 ・認知症との共生社会の実現が重要となっており、認知症本人の声を重視する「新しい認知症観」に基づく取組の推進が求められる。また、難聴者の早期発見・早期介入につなげるための仕組みづくりが求められる。

３　高齢者を支えるサービスの整備

指標(KPI)の状況

「摂津市は高齢者にとって暮らしやすいまちだと思う」と回答した市民の割合

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
46.4% (令和２年度)	51.0%	45.3%	50.3%	46.9%	38.6%	42.4%	×

介護サービスを利用していない理由について「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからない」と回答した高齢者の割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
3.7% (令和４年度)	3.5%	―	3.7%	―	―	7.4%	×

訪問型サービス・通所型サービスの総事業費に対する「多様なサービス」の事業費割合【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
5.9% (令和４年度)	6.15%	―	5.9%	6.5%	8.0%	6.3%	○

事業を通じて確保した担い手の人数【★】

基準値	目標値	実績値					評価
		R3	R4	R5	R6	R7	
40 人	25 人	―	40 人	36 人	21 人	25 人	○

※年度の表記がない項目は、基準値…令和元年度の数値を示しています。

❼福祉-２　高齢福祉

主な取組実績 (R3～R6 年度)	【高齢介護課】 ・介護サービス相談員が延べ 291 回、44 事業所を訪問した。 ・外出が困難な高齢者の通院等に係る移送サービスについて、延べ 2,375 人、4,685 回の利用があった。 ・訪問理美容サービスについて、延べ 89 件助成した。 ・日常生活支援ショートステイについて、延べ 867 人、1,326 日の利用があった。 ・高齢者世帯を対象に民間賃貸住宅の家賃の一部を助成した。（支給件数延べ 1,004 件、助成額延べ 113,749,800 円） ・介護の日イベントを開催し、介護保険制度の利用方法などの紹介や各団体による介護ブースの設置等、介護保険に係る啓発に努めた。 ・介護保険事業者連絡会主催の業務継続計画（BCP）研修の場において制度改正の内容等、必要な助言を行った。 ・摂津市介護保険事業者連絡会と協力した「摂津市福祉就職フェア」の実施やケアマネジャーの資格更新費用の補助制度導入など、介護人材の確保・定着を推進した。 【環境業務課】 ・ふれあい収集利用者に対し、利用者それぞれの状況、事情に合わせた収集を実施した。
主な取組実績 （R7 年度）	【高齢介護課】 ・介護サービス相談員 13 人(男性 3 人、女性 10 人)体制で、延べ 215 回、23 事業所を訪問した。また、月 1 回の連絡会にて、施設訪問時の状況や利用者の様子等について情報共有を行った。 ・市内の有料老人ホーム 1 施設に相談員の派遣を依頼し、新規受入の申出があった。 ・外出が困難な高齢者の通院等に係る移送サービスについて、695 人、992 回の利用があった。 ・訪問理美容サービスについて、23 件助成した。 ・日常生活支援ショートステイについて、246 人、337 日の利用があった。 ・高齢者世帯を対象に民間賃貸住宅の家賃の一部を助成した。（支給件数 235 件、助成額 25,742,200 円） ・11 月の介護の日に合わせて、介護保険制度の啓発を目的とした介護の日イベントを開催した。介護保険制度の利用方法などの紹介や各団体による介護予防ブース、事業所作品コンテストを行った。事業所作品コンテストでは、介護保険施設利用者と介護保険施設スタッフによる作品をイベント当日のほか市役所でも展示を行い、961 票の投票があった。 ・摂津市介護保険事業者連絡会と協力して「摂津市福祉就職フェア」を開催し、28 人が来場した。

	・介護支援専門員等研修支援補助金については、5 件補助金交付を行った。 【環境業務課】 ・ふれあい収集利用者に対し、利用者それぞれの状況、事情に合わせた収集を実施した。
分析・考察	・KPI「摂津市は高齢者にとって暮らしやすいまちだと思うと回答した市民の割合」は、令和 3 年度から令和 7 年度の 5 か年平均が 44.7%であり、基準値（46.4%）より下回ったため「×」とした。 ・複雑な制度に対して理解が進みづらく、必要な支援が受けづらい状況が「暮らしやすさ」の実感低下の要因の一つと考えられる。 ・KPI「サービスを受けたいが手続きや利用方法がわからないと回答した高齢者の割合」は、令和 7 年度実績が 7.4%であり、基準値（3.7%）を上回ったため「×」とした。 ・高齢化の進展やひとり暮らし高齢者の増加に加え、複雑な制度やサービスの多様化により、必要な情報を理解し適切に利用することが難しい高齢者層が増加していることが考えられる。 ・KPI「訪問型サービス・通所型サービスの総事業費に対する『多様なサービス』の事業費割合」は、令和 4 年度から令和 7 年度の 4 か年平均が 6.7%であり、目標値（6.15%）を上回ったため「〇」とした。 ・訪問型サービス A（家事おたすけサポート）等の実利用者は減少傾向にあるものの、訪問型サービス D（元気はつらつおでかけサポート）の支援回数が増加したこと等が要因である。 ・KPI「事業を通じて確保した担い手の人数」は、令和 4 年度から令和 7 年度の 4 か年平均が 30.5 人であり、目標値（25 人）を達成したため「〇」とした。 ・就労トライアル事業を通じた就労者数は増加している一方、福祉就職フェアの参加者減や訪問型サービス A の従事者登録の伸び悩みが見られるなど、担い手の確保は引き続き課題となっている。 ・市民意識調査では、60 歳代・70 歳以上や 20 年以上在住といった当事者層において不満の割合が高い傾向が見られる。これは、高齢化の進展やひとり暮らし高齢者の増加に伴い、介護ニーズが高まる一方で、支援に対する期待も高まっていることが一因と考えられる。 ・市民意識調査では、「親と同居世帯」において満足度が低い傾向が見られる。これは、仕事と介護の両立による負担感や、必要な時に希望する支援が受けられるのかという不安が、行政サービスに対する満足度に影響しているものと考えられる。また、サービスを提供する現場では担い手の確保が課題となっており、従来通りの募集や啓発だけでは、市民のニーズに応じたサービス提供体制を十分に確保することが難しい状況にある。したがって、福祉の仕事や支援活動に関心のある層へより効果的にアプローチするとともに、確保

	した人材が実際の就労へつながる仕組みづくりが求められる。 ・全国的に高齢者の単身化が進み身近に頼れる人が減少していることに加え、社会全体のデジタル化が進む中で、制度の複雑化により必要なサービス情報を自力で収集・理解することが困難な高齢者が増加傾向にある。したがって、情報収集が困難な層のニーズに即した情報設計や、広報紙・市ホームページ・ケアマネジャー等を通じて、制度やサービスをわかりやすく伝える手法の見直しが求められる。